

境港カーボンニュートラルポート形成協議会（第1回）開催概要

- 国（国土交通省）では、輸出入貨物の99.6%が経由する国際物流拠点であり、CO₂排出量の約6割を占める産業の多くが立地する港湾において、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート（CNP）」を形成し、我が国の脱炭素社会の実現に貢献することとしている。
- 境港においても脱炭素社会を実現するため、荷主、船社、荷役業者、背後企業等の港湾関係者が参画する協議会を設置し、官民一体となって実効性のあるCNP形成計画を策定していく。
- 令和4年10月17日（月）に第1回境港CNP形成協議会を夢みなとターミナルにおいて開催し、協議会を設立、CNPに向けた検討内容や今後のスケジュールについて共有を行った。

■開催概要■

- 1 日 時： 令和4年10月17日（月）15：00～16：45
- 2 場 所： 境夢みなとターミナル 待合ホール
- 3 議事概要

- 事務局から本協議会の目的・役割・進め方について説明を行い、協議会において境港CNP形成計画（案）を策定していくことを確認した。
- 構成員の中国地方整備局より、徳山下松港におけるCNP形成計画の策定状況や他港湾の状況について、情報提供を行った。
- 協議会に参加した構成員、オブザーバーとの意見交換を行った。

【主な意見】

- ・脱炭素には、省エネ・創エネ・オフセットがあり、特に新エネルギー技術という点で創エネに着目されることが多いが、まずは、着手しやすい省エネを推進することが良いと考える。
- ・脱炭素によりエネルギー源を一元化した場合、災害発生時に港湾機能の維持に懸案がある。災害時にも港湾機能を維持できる範囲で計画していく必要がある。
- ・脱炭素の価値を見える化していくことが重要。バイオマスや太陽光といった再生可能エネルギーが立地している境港の特徴に合わせた検討を行う必要がある。
- ・脱炭素を目的化せず、脱炭素を手段として、港湾の競争力強化のため検討を行っていく必要がある。
- ・次世代エネルギーへの転換等、夢の産業に向かって発展していくチャンスと捉えている。

■第1回協議会におけるご意見と対応■

ご意見	対応
・境港の独自性という観点で、さらに深堀していくためには分科会を立ち上げて実施いただくことが良いのではないかと考える。	・境港の独自性という観点で、周辺自治体や企業に取り組んでいる取組（ブルーカーボン等）について分科会で深堀りをしたいと考えている。 なお、 <u>テーマ、メンバー、時期等については、今後調整させていただきたい。</u>
・境港は水産業が盛んな地域であるが、水産業者に対する脱炭素も検討するのか、港湾のみなのか、教えていただきたい。	・本計画では、港湾機能の高度化や立地企業との連携等により、港湾地域の面的・効率的な脱炭素化を目指しているため、基本的には港湾の脱炭素化に関する検討を想定しており、 <u>水産業者に対する脱炭素は検討しない。</u>